

# 月影



第55号

平成二十八年十月一日発行  
浄土宗西山禅林寺派  
常林院

足りないものは  
数えない



足りないものを

数えれば

心は満たされず

苦しみが生まれる

今あるものを

数えれば

心は満たされ

安らぎが生まれる



# 如意輪観音

## 姿の特色

にょいりんかんのん  
如意輪観音には、

腕が二本、四本、六本、それ以上の仏像が經典に説かれています。日本では二本と六本の仏像が多く、そのほとんどが足をくずした座像です。古い時代は二本、平安時代以降は六本が多いようです。その姿は左足の裏

に右足を重ねて右ひざを立てて座り、右の一手で頬杖ほおづえをつき、一見くつろいだ姿勢で座っておられます。他の右手は胸の前で宝珠ほうじゆをのせ、もう一つの右手は数珠じゆずをとり、左手は肩のあたりで輪宝りんぼうをささげ、他の手は左胸前で蓮華を持っています。

## 信仰

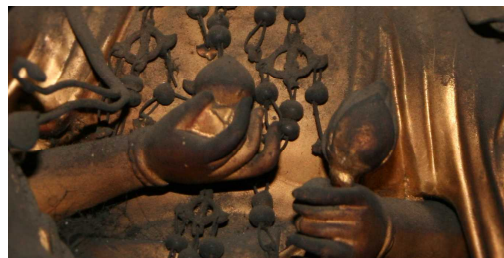
八世紀にこの如意輪観音の經典が伝えられ、珍しい観音として朝廷や貴族の関

心を集めました。平安時代以降は、そのほとんどが六本腕の像で、六本の腕は六道の苦悩を除き、衆生を救う利益りやくがあるとされています。

※輪宝りんぼう：車輪の形をした仏具。



如意輪観音 (常林院)



右手に宝珠ほうじゆ、左手に蓮華れんげ

※宝珠ほうじゆ：願いを叶える宝の珠たま。

# 仏事の作法

## 数珠

(じゆず)



日課数珠

仏具の中でも一番身近なお数珠。

数珠は、その材質、大きさ、色など様々な種類があります。もちろん宗派によって様式が違います。

## 日課数珠

我が宗派の数珠は

日課数珠につかじゆずといい、二つの輪からなる二連にれんの数珠です。この二連の数珠は、法然上人の弟子阿波介あわのすけが考案したもので、お念仏を称えながら珠たまを繰り、房ふさについた珠も使って六万遍のお念仏を数えることが



左は組紐の房

できます。

## いろいろな数珠



いろいろな種類の数珠

僧侶の数珠は、普段は日課数珠ですが、葬儀や開眼供養など、法要に合わせて数珠を使い分けます。数珠は身に着けることで、法要に臨む心構えができます。


## 数珠の扱い方

数珠は左手にかけます。珠たまが傷つくのをおやみに音を立てこすて擦らないようにします。また数珠はお経の本と同じように、直接床や畳の上に置かないようにしましょう。持ち運びは数珠袋に入れましょう。



左手にかけて合掌

# 仙事の 質問帖



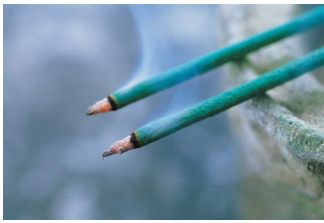
問「お位牌が多いので、古いお位牌を整理したいのですが…」

答 お位牌を整理（処分）するには、お性根抜き（魂抜き）の法要をする必要があります。お位牌を作った時に、僧侶が開眼供養をして、お性根入れ（魂入れ）をしているので必ず魂を抜かなければいけません。

お性根抜きをした後は、仏具店、またはお寺さんにお位牌の処分を頼みましょう。処分する以外にも、修補する時や引越し

等で移動する時も、必ずお性根抜きをしてもらいましょう。これはお仏壇やお墓も同様です。

また逆に、新しく購入した時は、必ずお性根入れをお願いしましょう。



## 雑記抄

〳如意輪観音〳

今号で紹介した如意輪観音は、常林院にお祀りしている仏像です。

仏像を安置している厨子の裏を見ると「明和六年泰珉寄附」と記されています◆明和

六年とは一七六九年、江戸時代。泰珉とは、常林院第十三世、法空泰珉上人のことで

す。その横には「頭巾屋根厨子 観音講寄附」と記されており、泰珉住職が如意輪観音を、観音講さんが仏像を

安置する厨子を、それぞれ寄附されたことが分かります◆この如意

輪観音は小さな仏像ですが、細かい所まで

丁寧ていねいに作られており、やさしい顔をされています。なぜ寄附されたのか理由は不明です

が、当時の人々がこの仏様によって苦しみから救われたことを想像します◆二百五十年もの長い間、たくさんの人々から拝まれてきた如意輪観音の眼差しは、今も私たちをやさしく見つめておられます。